

「スマホとの付き合い方」

学校長 金子 正人

夏休み明けから猛暑の日々が続きましたが、ここへきてようやく夏の高気圧も勢力を弱めつつあるようです。保護者の皆様には、日々感染予防のための検温や健康観察にご協力いただきありがとうございます。

夏休みに「スマホを捨てたい子どもたち」*という本を読みました。タイトルに惹かれて手に取って見たのですが、考えさせられる内容でした。著者の山極寿一氏は京都大学の総長で、ゴリラ研究の世界的権威です。山極氏が講演等で子どもたちと対話する中で、意外と多くの小中高校生が「スマホを捨てたい」と思っているそうです。ゲームや仲間との会話を楽しんでいるように見える子どもも、実はスマホを持て余しているのではないかというのが山極氏の考えです。以下著作から引用です。「でも、本当の意味で人々は世界とつながっているのだろうか。今、人々をつなげているのは情報です。情報を取り損ねたら、読み間違えたらつながりが切れてしまう。そういう不安に駆られて人々はスマホに頼ります。だけど、人々はそうしてつながっていることに安心感や充足感を覚えているのだろうか、と気になります。(中略)だから、つながれる人間は家族でも先生でもなく、自分と同じ境遇のわずかな仲間に限られてしまう。スマホという情報通信機器がかえって世界を閉じてしまう結果になっている。」

スマホを巡るトラブルは、休校期間中や夏休みにも起きています。ゲーム漬けによる昼夜逆転生活、課金を巡るトラブル、ネット対戦型ゲームで知らない人とつながるケース。また SNS への投稿を巡る友達同士の行き違いなどなど、枚挙にいとまがありません。

学校では、学年に応じてスマホやインターネットとの付き合い方を指導しています。特に高学年児童には、ラインなど SNS への不用意な投稿で後々いろいろな問題が起きたり、出会い系サイトで事件に巻き込まれたりする例をあげて考えさせる機会をつくっています。

スマホは便利な道具なので実際に「捨てる」ことはできなくとも、時にはスマホから意図的に離れてみるなど付き合い方を考え、適度な使い方ができるようになることを願っています。ご家庭でもぜひ話題にしてみてください。

*「スマホを捨てたい子どもたち」 野生に学ぶ「未知の時代」の生き方 山極寿一 2020年 ポプラ新書

《児童支援専任教諭から》

- 四六時中、気づけばスマホを手にはしているのは、依存症につながる危険な状態です。家族で利用のルールを話し合い、保護者が利用状況を把握するよう心がけましょう。利用時間を制限するアプリを利用することも一つの方法です。
- 場合によっては、友達を自死に追い込むことになるほどの大問題となる「SNS いじめ」。グループトークの場合、悪口、仲間外れ、集中攻撃、さらし行為などは、メンバー以外には内容を読むことができないため、トラブルの発見が遅れがちです。子どもたちの日々の様子や会話から変化・違和感をつかむことが早期発見・解決のカギとなります。
- 相談機関によると、「子どもが10万円以上の課金をしてしまった」という小学生の保護者からの相談が増加しているそうです。クレジットカードの管理責任は保護者にあります。パスワードの扱いや課金設定にも気を配り、無断で使うことのないよう工夫しましょう。